

# 学習履歴を中心にした授業改善に関する研究

堀 哲夫

山梨大学教育人間科学部

## はじめに

大学の大衆化とともに、多様な能力および高校で必要な科目を履修しないまま学生が入学するようになり、授業にもさまざまな工夫が凝らされるようになってきている。しかし、たとえ学習の状況を適切に把握し、その都度フィードバックをかけることが重要であるとはわかっていたとしても、どんな方法で行ったらよいのかわからないので、授業が終わってみて教師の意図と受講者の認識のズレに悩むことが多い。

大学の授業で、毎時間ごとに学生が何を学んだのか、また教師の授業が適切であったかどうかを確認する方法として、一枚の用紙を用いて毎時間学習した一番大切な内容を書かせることなどによる一枚ポートフォリオ評価法（OPPA: One Page Portfolio Assessment）を開発し、実施したのでその結果を報告したい。

## 1.OPPA とは何か

### (1) OPNA の定義

OPPA とは、教師のねらいとする受講の成果を、受講者が一枚のシートの中に受講前・中・後の学習履歴として受講内容を記録し、それを自己評価させる方法をいう。受講者自身が具体的内容を通して可視的かつ構造化された形で学習による変容を自覚できるので、その内容から学ぶ意味、学ぶ必然性、自己効力感を感じ取ることができる。また、教師はそれを見て、授業評価に活用することができるという利点がある。OPPA は、人は知識や考えを受動的に受け入れるのではなく主体的に現実や意味を構成し認識していくという構成主義の教授・学習論の考えに基づいている。

### (2) OPNA を構成する基本的要素

本学の2年生を対象にした講義「中等理科教育法」で用いた OPP シートと記入例およびシートの構成要素と要点を図1に示した。OPPシートは「受講前・後の本質的な問い」、「学習履歴」、「自己評価」の三つの要素から構成されている。

### (3) OPNA の利用方法

この授業では、「受講前・後の本質的な問い」として、『理科教育』という言葉を使って文を三つ書いてください。」を設定した。この場合、「理科教育」という言葉がこの講義内容のキーワードになっているからである。その後、毎時間、「一番大切だと思ったこと」を学習履歴として書かせる。教師は、授業後、受講生の書いた内容を見て、時には受講者が考えを深めるコメントをシートに記す。さらに記録内容から授業の適切性を判断し、必要があれば次の時間の始めに軌道修正などを行う。

最後に、受講生が学習全体を振り返り「何がどう変わり、それについてどう思うか」などを自己評価させる。

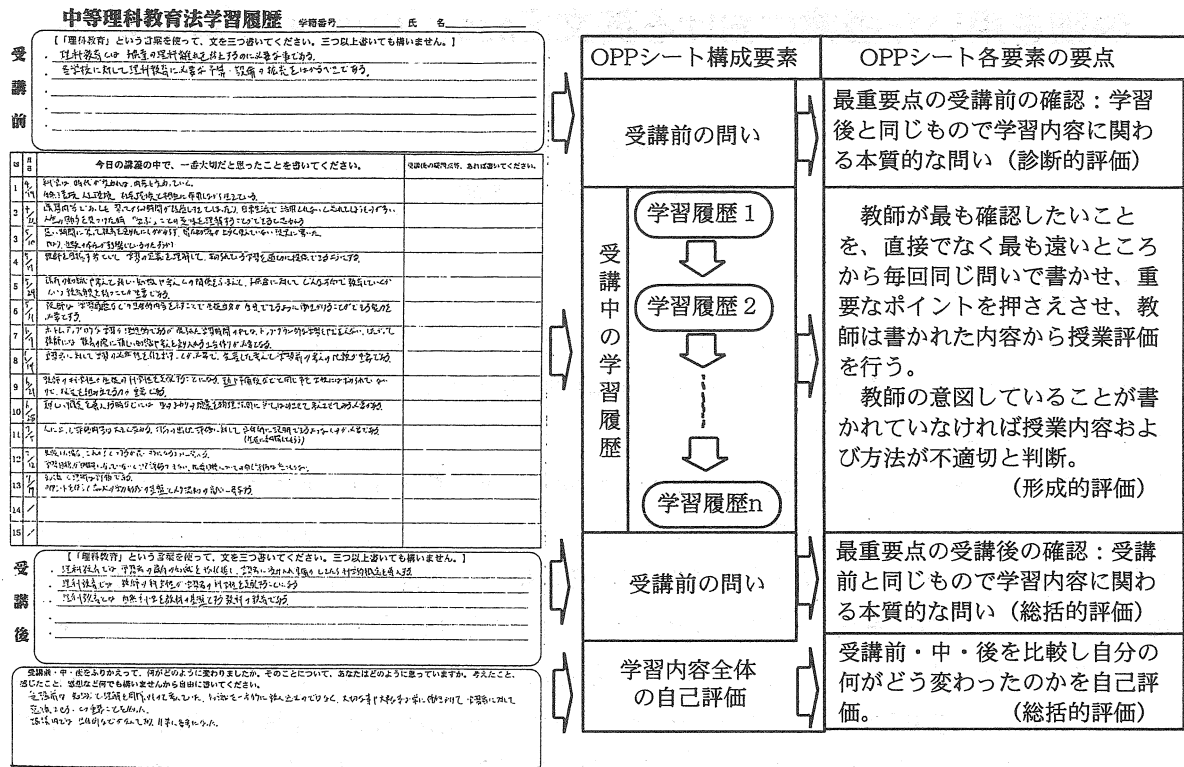


図1 「中等理科教育法」の講義で用いたOPPシートと記入例および構成要素と要点

## 2.OPPA を利用した授業例とその効果

### (1) 授業内容の最重要事項は何かを考えながら受講するようになる

図1で用いた方法の特徴の一つは、学習履歴で最重要事項を要約させることにある。これを毎時間問うことになるので、受講者もそれを意識して聞くようになる。要点を毎時間問うことは、その資質・能力を育成することにもつながっている。

### (2) 受講内容の意味を明確にすることができる

たとえば図1では、「知識と理解を同様のものと考えていた」「知識を一方向的に教えるのではなく、大切な事や大事な事を常に働きかけて、学習者に対して意識させることが重要なことを知った。」のように自己評価しているが、これは学ぶ意味を明確にしている事例と言えるだろう。

### (3) 授業評価が可能になる

OPPAは、教師の授業評価ができることも特徴の一つにあげられる。それは、学習履歴において最重要事項を記録させるので、その書かれた内容が教師の意図したものとはほぼ同じであれば、その授業は問題がなかったと判断してよい。その逆であれば、授業に問題があったと言える。これを毎時間検討できるので、OPPAを適切に活用すれば次の指導に生かすことが可能になる。この他にも、OPPシートは出席記録にもなるのだが、単なる出席簿の役割だけに終わらせるべきではない。

## 3.大学の授業でOPPAを利用するときの課題

- (1) 授業時間が長い場合には最も重要なことが不明確になる
- (2) 大学で使用する場合は学生によって重要事項が異なる場合がある
- (3) 受講生が多い場合はシートの配布方法に工夫がいる